

1. はじめに

お産をいかに快適にスムーズに進めるかということを追及する中で、様々な整合法、体の調整法に触れ、学ぶ機会があった。その中でも、体のゆがみ、特に脊椎のゆがみがこのところからだに及ばず影響に興味を持つている。

近年多動や発達障害などが原因で就学後じつと座っていられない子供たちが原因はわからないが、不登校の子供たちが増えているというところをよく耳にするようになった。

2012年の文部科学省の調査で、全国の小学校中学校の児童生徒数は、およそ1000万人、そのうち発達障害を持つ可能性のある子どもはおよそ6.5%と言われている。少なくとも見積もっても全国に60万人はいる、ということになる。これはいろいろな発達障害をひっくるめた数字で、40人クラスでも一人か二人は必ず発達障害を持つ可能性のある子どもがいると推定される。

いくつかの体の調整法の中に、脊椎を調整することで、子供に落ち着きを取り戻したり、学校に行けるようになった事例がある。聞いた。一概に脊椎の調整といってもさまざまであると思われる。私が知っているだけでも、柔道整復法、カイロプラクティック、野口整体、仙骨良法（仙骨療法）、クラニオセイクラル（頭蓋仙骨療法）、オーガニックな純度の高いアロマオイルを用いたレインドロップテクニック（アロマオイルによる脊椎調整法）*5、ソマティック・エナジエティクスがある。脊椎へのアプローチがそれぞれに発達障害の子供たちに関して成果をあげていることは、施術者から直接聞いたことがある。しかし、発達障害などの問題に関する施術の具体的な文献がないように思われる。

そこで、今回は、特に子供の発達障害などの問題にも取り組んでいるソマティック・エナジエティクス（以下 S E）という整合法のプラクティショナーのきむらゆきさんから、施術の貴重なお話を聞くことができた。

それをもとに、発達障害などの問題を抱える子供たちと、環境のずれの関係について考えてみた。

2. 研究目的

1. 研究対象

2013.1~2014.12の間に S E のプラクティショナーの施術を受けた発達障害など問題を抱える子供たちで倫理的に親の同意が得られた人たち

発達障害などの理由で S E の施術を希望された対象者それぞれに環境のずれがあったかどうかを確認し、施術後のように変化したかを追跡調査する。

年齢と性別、診断名を公表、個人が特定できない形での協力をプラクティショナーから依頼していただいた。診断名を伏せてほしいといわれた方に関しては、診断名を伏せる。

Aさん 5歳、男児

診断名：広域自閉症 症状：多動、コミュニケーション困難、普通学校は難しいといわれる 環境のずれ：あり 施術回数：5回 施術後の変化：

1回目↓つりあがっていた目が穏やかな丸い目
2回目↓人に話しかけ、その人の返事を待つことができるようになる。

母から「子供が落ち着きました」と感想あり。

3回目↓友達と遊び始めたり、文字に興味を持ち始める。

4回目↓不明

5回目↓まだコミュニケーションに困難を感じたり、意味理解が難しい時もあるが、普通学校に通い、学んでいる。

Bさん 2歳半、男児

診断名：不明 症状：手足に力が入らず、よく転倒する。あまり歩きたがらない。

環境のずれ：あり

施術回数：不明

施術後の変化：1回目の施術で絵を描いた時の線が力強くなる。自分で歩くのが楽しくて仕方ないといった様子で、以前より活動量が増える。

Cさん 6歳、男児

診断名：不明

症状：コミュニケーション困難。2・3歳のころに普通学級に通うのは難しいといわれた。気難し。骨盤部分の固。

環境のずれ：あり

施術回数：2回

施術後の変化：母からの感想より、「最初の施術を受けた次の日から様子が違う。以前より落ち着いた感じで、家族も楽になった。担当の先生から変化に関するお手紙ももらった。」

Dさん 10歳、男児

診断名：アスペルガー症候群

症状：不登校、家庭内暴力、コミュニケーション困難、カメラに入らないので家族写真が取れない、家族で外食に行けない 環境のずれ：あり

施術回数：2回

施術後の変化：学校に通い始める。

家族写真をとることができた。

家族そろって外食ができるようになる。

コミュニケーションは上手ではないが、「どういう気持ちでそうしたか、そういうたか」を後からでも伝えられるようになる。

Eさん 6歳、男児

診断名：多動

症状：発達の遅れ（6歳半くらいといわれる）会話は3語文が主。単語のみで会話。睡眠障害あり。

環境のずれ：あり

施術回数：2回

施術後の変化：環境のずれは完全には戻らなかったが、発音でできなかった「さ行」が言えるようになった。本人が施術を「気持ちいい」と気に入る。

協力者5人の事例中、環境のずれがあったのは、5人中5人。施術により、環境のずれが改善されたのは、5人中4人。症状に何らかのよい変化があったのは、5人中5人。

3. 考察

検討対象事例は少ないが、普通学級に行けないといわれた子供たちが、普通学級に入れるくらいコミュニケーション能力が改善している事例があるというのは興味深い。

D R. マイケル・マクフライド氏（S E創始者）は、S Eは、体を調節することで、神経系に働きかけているという。原因はわからないけれども、子どもになぜか疲れやすい・落ち着きがない・集中力がない・発達がゆっくりである・排便がうまくいかない・コミュニケーションがうまくない・睡眠障害がある・感情的に不安定である、などの問題を抱える人たちに環境のずれがみられることが多いという。

彼の8000例以上の施術例の中には、そのような子どもたちの環境や骨盤のズレを調整することで家族が生きやすくなったという豊富な経験がある。

D R. マイケルによると、「環境とは、7つある頸椎の一番上にある骨で、脳や脳幹に最も近いから重要である。環境がずれると直接脳を圧迫しているのと同じであり、呼吸や心拍にも影響が及ぶ。頸椎はとてもデリケートな骨で、環境になっていて、内部を何千もの神経が走っている。ここがブロックされてしまうと、神経の伝達がスムーズにできなくなる。頸椎はバランスに対しても重要な役割を果たす。」と述べており、プラクティショナーのきむら氏によると、「S Eを受けることで、神経系と脳幹への負担がストレスが軽くなり、発達の後押しになることが期待される。」という。健康であるということは、血管につまりがない状態が大切であると同様、神経系にもつまりがない状態であることが大切なのではないかと思われる。血管系がつまりると、体の不調として現れ、医師が治療を行い、改善できる。

しかし、神経系がつまりると、目には見えない原因不明のころからだの不調としてあらわれるのではないかと思われる。そして、周囲の協力や理解がないと、親が心身ともに疲れてしまい、虐待につながるケースもあるのではないかと。

S Eの面白いところは、親と一緒に体の調整をすると、施術前に比べて施術後に「このころ（気持ち）」が楽になった」という感想を言う方が多いところである。

さらに興味深いところは、体調や発達に特に不調が見られない子どもたちも、ヨーロッパでは数多く S E の施術を受けており、S Eを受けることで勉強やスポーツの成績が伸びる、子ども達がいることに D R. マイケルは気付いている。これらは安心感に包まれ集中力が増すために自然に起こることだといえる。

S Eは、目に見えない心へのアプローチではなく、目に見える体へのアプローチであるのに、不調があるにせよ、ないにせよ、症状があるにせよ、ないにせよ、神経のつまりが取れて、年齢・性別に関係なく、このころが楽になるのではないかとと思われる。

4. 結論

1. 発達障害などの問題を抱える対象事例の子供たちに全員に環境のずれがみられた。
2. 環境の調整で、発達障害などの問題が解決するかどうかは、今回の事例だけみると、良い兆候が見られるが、日本ではまだ施術例が少ない。
3. 環境のずれを調整すると、コミュニケーションが苦手だった子供のコミュニケーション能力が上がる。
4. 体調や発達に不調が見られない子供たちが受けることで、集中力が増し、勉強やスポーツの成績が伸びる。
5. 環境の調整から発達障害・このころへのアプローチは、虐待予防につながる可能性がある。

今回協力を快く引き受けてくださった S E のプラクティショナーであるきむらゆきさんは、「ここに書くことはできない事例でも子供たちに関するこのころと身体の問題に取り組まれていて、成果をあげられている。

子供の発達障害などの問題に関していえば、親も含め、周囲がその子供の特徴を知り、対処する方法を学んだり、行動療法をしたり、相談できる専門機関を紹介したり、薬物療法をしたりといったアプローチは多くの文献で見ることができるといえる。一方、脊椎、特に頸椎や仙骨を調整することで、このころが楽になるというデータは、みられない。

今後、発達障害などの問題を抱える子供たちとその親たち、生きにくさを感じている子供たちとその親たちが S E をつけることで、コミュニケーションがとりやすくなったり、「このころが楽になった」と感じたりできるようになるとすれば、このような問題の対処法の一つとして体へのアプローチ環境や仙骨へのアプローチは選択肢の一つとして試してみてもよいのではないかとと思う。

自閉症など広汎性発達障害のある子どもは、乳幼児期から、育てにくさや育てるのに手こたえのなさをなどのため、児童虐待や、愛着形成の障害など二次障害を起す可能性が高い。*2 S E の体に負担が少ないソフトタッチの手法は、児童虐待にまでつながる親の「生きにくさ」「育てにくさ」を「子どもを育てる喜び」に変換できるのではないかと期待する。

参考文献

(1) 遠藤明代ほか「保育所・幼稚園に在籍する気になる年中児の行動と発達に関する保育者意識調査」小児の精神と神経 54巻 3号、P2299-2411-2014.10.2 金原洋治「幼児期早期の広汎性発達障害の早期発見の意義と課題」日小医会報 No.40、P126-130-2010.3 今西良輔「相談機関における発達障害に対する支援について」親子関係に着目した相談援助」薬学図書館 59.

(2) P104/107-2014.4 洲浜裕典ほか「特集 乳児健診 Q&A N 心の発達・行動 Q 落ち着きがないといわれます」小児科診療第75巻11号、P1979-1982-2012.5 D. ゲリーヤング・エッセンシャルオイル総合医学ガイド Essential Science Publishing) 1-2003



著者紹介

松村恵子 松村助産所

17年以上の助産師経験。500組のお産のお手伝い。7000件を超える育児・おっぱい相談経験で地域にすむママを笑顔に☆ママとベビーの笑顔を広げる助産師☆松村恵子です。大阪の総合病院で3年。助産院で約8年。開業届を出して、約8年。助産院での自然なお産に魅了され、自然を活かしたお産を追及してずっと学び続けています。

2児のママにもなりました。

心がけていることは、「ママや子どもたちが、いのちのすばらしさ・自分のすばらしさに気付く機会をつくりたい」ということです。

姫路で、一人でも多くの妊婦さんやママに笑顔で子育てをしてもらえよう活動していきます。